

CONTENTS:

- P1 FD・SDフォーラム開催
P2 教職員研修・学生ワークショップ開催
P3 寄稿 (1)・(2)
P4 2018年度後期授業アンケート結果報告

全学FD・SDフォーラムを開催しました

2018年度第1回（通算25回）FD・SDフォーラム 11月21日開催

■ テーマ

- ① 「ディプロマ・ポリシーとシラバスの作成について」
- ② 「DSシステムに基づく修学指導の導入実践報告」

■ 講師

- ① 野村 良紀 氏（工学部 応用化学科 教授・教務部長）
- ② 椋平 淳 氏（工学部 総合人間学系教室 教授・教育センター長）
- 橋本 智昭 氏（工学部 機械工学科 講師）
- 馬場 望 氏（工学部 建築学科 教授）
- 森内 隆代 氏（工学部 応用化学科 教授）
- 田熊 隆史 氏（工学部 電気電子システム工学科 准教授）

■ 会場

233教室（大宮キャンパス）
セミナー室204（梅田キャンパス）
1305教室（枚方キャンパス）

今回は、「ディプロマ・ポリシーとシラバスの作成について」と「DSシステムに基づく修学指導の導入実践報告」の2テーマで6名の先生方にご講演いただき、210余名の教職員が参加しました。

まず、はじめに、現在の大学教育のテーマであり、AP事業の一環として構築したディプロマ・サプリメント（DS）システムの根底にある「ディプロマ・ポリシー」の意義と、教育の基本である授業を行う上での重要文書となるシラバスの作成について、改めて理解を深めました。具体的には、本学のシラバスの変遷や、シラバスに明示されているミニマムリクワイアメントとディプロマ・ポリシーとの関係について再確認しました。

次に、2017年度末から工学部で行われている、学生に対するDSシステムを用いた修学指導への導入実践の報告を行いました。2018年度末からは残る3学部でも本格導入の予定です。DSシステムのスムーズな導入作業に向けて、必達値・目標値の設定方法、記録票を用いた修学指導などについて、工学部の事例を全学共有しました。

今後もFD・SDフォーラムでは、学部・学科・授業単位の取組みをご報告頂き、大学全体で共有する機会を提供します。



参加者アンケートの集計結果を紹介します

アンケート提出者 211名

「テーマ設定についての満足度」選択回答 集計結果

良い=14名 (49.7%)	まあまあ良い=59名 (28.0%)	ふつう=35名 (16.6%)	やや悪い=5名 (2.4%)
悪い=0名 (0%)	未回答=7名 (3.3%)		

教職員研修・学生ワークショップを開催しました

2018年度教職員研修・学生ワークショップ 12月25日・26日開催

■ テーマ

「社会人として必要なこと」

■ 講師

1004・1005教室他（梅田キャンパス）

教職協働作業を実践する機会でもある「教職員研修・学生ワークショップ（WS）」を12月25・26日の両日、梅田キャンパス（OIT梅田タワー）で開催しました。昨年度までは、「教職員研修ワークショップ」と「学生ワークショップ」に分けて実施していましたが、今年度は、学生を教職員と一緒にグループに加えて「教職員研修・学生ワークショップ」として実施しました。

工大としては第7回目の開催となり、12名の教職員ファシリテーターおよび教務課メンバーがWSの運営を担当しました。今回のWSは「社会人として必要なこと」をテーマとし、教員11名、職員6名、学生6名の総勢23名の参加者が研修に挑みました。

参加者の意見をより多く引き出すために、昨年に引き続き「ワールド・カフェ」を導入しました。「ワールド・カフェ」では、どのグループも和気あいあいとした雰囲気ですり上がりしました。

その後、参加者は「KJ法」、「カリキュラムとは、学習目標とは」、「教育目標とは」、「学習方略とは」のセッションと3班に分かれたグループ討議・プロダクト制作に取り組みました。小グループでのワークでは、学生が教職員と同じグループに加わったことでより多様な意見が出され、ファシリテーターの皆さんの熱意ある導きや助言を受けながら、各参加者が活発な議論を交わしていました。日頃は膝を付き合わせて接する機会がほとんどない教職員・学生同士の交流も深まり、今年度も盛り多い研修会となりました。



今年の参加メンバー



ワールド・カフェ



グループワーク



グループワーク

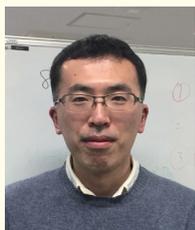


プロダクト発表

「教職員研修・学生ワークショップ」参加者から寄せられた感想を紹介します

- シラバスの作成や、授業計画を策定するに当たり、参考となる内容であった。
- 学生が参加することで議論が活発になった。
- カリキュラムの作成に役立てられそうだった。
- 教職を目指している学生の自由な発想を知ることができ、勉強になった。
- 普段学生に行ってもらっているグループワークがいかに難しいか再実感できた点は良かった。
- 普段の業務では交流のない教職員・学生と話すことができ、いい機会となった。

寄稿 (1) 教職員研修・学生ワークショップに参加して



工学部一般教育科
准教授 明 孝之

2018年12月25日、26日に梅田キャンパスにて開かれた「教職員研修・学生ワークショップ」に参加しました。このワークショップでは、参加者の皆さんと共に、設定されたテーマに基づいたカリキュラムを作り上げていく手法を体験的に学びました。今回、取り上げられたテーマは「社会人として必要なこと」でした。このテーマを習得できるようなカリキュラムを、仮想的に半期分の講義に見立て、二日間かけて作成しました。私自身は物理学が専門ですが、既存の科目のカリキュラムを修正したり、追加したりすることはありましたが、一から作成するということは未経験でした。その意味で大変勉強になるワークショップでした。

初日に会場に入るまで、どのような過程や作業があるのかは参加者に知らされていません。実施の手順を説明しますと、1) 約8名ごとの班を形成し、まず各班で上記のテーマに関する課題をできる限り抽出します。この作業には「KJ法」を用いました。KJ法では、白紙のカードへの自由な書き込みを利用して意見を吸い上げ、それらを複数のカテゴリーにまとめました。作業はスムーズに行われ、短時間で様々な意見が抽出され、効果的な方法だと思いました。

2) 挙がった課題をヒントに、各班で固有のテーマ(ユニットとよばれる)を決定しました。この過程には「二次元展開法」

による課題の重要性、緊急性の位置付けを利用しました。私の班では議論の結果、「健康維持」となりました。ここまで用いたKJ法、二次元展開法は、私が研究上で扱う課題の意思決定でも役立つそうだと感じました。

3) 決定されたユニットを達成するための「目標」を設定しました。具体的には健康を維持するための目標、その達成のための複数の具体的な行動を設定しました。更に、各行動を「評価」するための方法を設定しました。そして最後に、コマ数の充当、講義や実習形式などを指定した「方略」の設定を行いました。これで終了です。

作業の最中は先が見えないためか、戸惑いを感じましたが、最後までたどり着くと頭の中で講義がイメージされるような出来栄となりました。作業の各段階では、参加者全員が集合して班毎に発表を行い、討議の時間が設けられました。討議では様々な意見・質問が寄せられ、それらはその都度フィードバックとしてカリキュラムに反映されました。

今回の研修の特徴に、学生と一緒に参加していたことが挙げられます。丁度、私が担当する教職科目を受講していた学生が参加していました。教職員に混じっての研修は、学生には緊張と負担があったのかも知れませんが、彼等は非常に積極的にワークショップに参加していました。

二日間をフルに使用した体験的なワークショップでしたが、年末にも拘わらず、準備が良くなされており、大変スムーズな進行でした。カリキュラムを作成する一通りの方法を学べる良い機会であったと思います。班内で作業に行き詰まる場面ではファシリテーターの方々から貴重なアドバイスをいただきました。企画と準備をなされた教職員の方々には感謝申し上げます。

寄稿 (2) 教職員研修・学生ワークショップに参加して



工学部事務室
木下 誠亮

今回、二日間にわたる教職員研修ワークショップに初めて参加させていただき、改めて協働力を生み出していくことの重要性や教育の質向上を実現していくための“気づき”を数多く得ることができました。また、「社会人として必要なこと」をテーマに、カリキュラムから学習目標、そして教育評価や学習方略までの作成を体験的に学べたことで、自身の視野や見識を大きく広げられたと実感しています。特に今回のワークショップでは、教員や職員だけではなく、初日から学生を交えた討議を行ったことで、幅広い意見やアイデアに触れることができました。テーマについても、捉える視点や定義によって、グループごとに色の異なる成果物となるものであったことも面白い点であったと思います。

グループ内での討議が始まると、教職員からは教育改革に日々携わる者として、自身の業務経験や知識を例にした意見が多く、学生からは各々の大学生活から得た経験や心情が意見として多く出され、固定概念に縛られない自由な発想・意見がとても刺激的でした。またワークショップの仕組みとして、①お互いを「さん」付けて呼び合う、②最初にKJ法を用いて各々の考えを最大限引き出す、③各グループ内での討議内容を全グループが集う合同討議で紹介し参加者全員から意見を頂く、これらのプロセスが、ワークショップ全体において全参加者の主

体的な参加と学びを促すとても良い仕組みだと感じました。

今回のワークショップ全体を振り返ると、教職員そして学生と共に協働的な力を身に付けることに加え、各セッションでの取り組みを通じて「学修効果を高める」ことをいかにして実現するかが大きなキーワードであったと感じています。カリキュラムや学習目標の設定、教育評価の考案、学習方略を作成する場合においても、どうすれば学修効果を高められるか、どうすればその効果に係る妥当性を示すことができるかといった視点を持つことが、一貫して重要なだと認識しました。また、討議を通じて、与えられた役割(司会、書記、タイムキーパー、発表)だけでなく、時々に応じて各々が効果的に作業をサポートすることで、短時間での成果の産出につながることを実感しました。これは日々の業務においても同様で、いかにチームとして協働力を発揮し相乗効果をもって課題をクリアしていくかが、今後の教育改革を加速させていく中で強く求められる点だと再確認しました。

「教育の質保証」や「成績の厳格化」が今後増々求められていく中、本ワークショップを通して得ることができた様々な気づきを、業務への取り組みからその先の教育改革に繋げられるよう、日々精進していきたいと思っています。そして、部署や所属の垣根を越えたボーダーレスな思考をもって協働力を発揮できるよう、経験と学びを深めていきたいと思っています。

今回このような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。お忙しい中、企画から準備そして運営をご担当いただきましたスタッフの皆様改めて御礼申し上げます。

2018年度後期に実施した授業アンケートの概要と集計結果を報告します

【実施科目数等】

区分	対象科目	科目数	履修者数	回答者数	回答率 (%)
学部	後期前半クォーター科目	71	3,043	1,671	54.90%
	後期科目	1,317	55,558	35,397	63.70%
大学院	後期後半クォーター科目	60	2,751	1,544	56.10%
	後期前半クォーター科目	15	209	63	30.10%
合計	後期科目	104	952	517	54.30%
	後期後半クォーター科目	10	157	60	38.20%
合計	後期前半クォーター科目	86	3,252	1,734	53.30%
	後期科目	1,421	56,510	35,914	63.60%
総計	後期後半クォーター科目	70	2,908	1,604	55.20%
	後期全科目	1,577	62,670	39,252	62.60%

※ (全学部、工学研究科、RD工学研究科、情報科学研究科)
 1 3回目または1 4回目に実施、週1回のクォーター科目は6回目または7回目、週2回のクォーター科目は1 3回目または1 4回目 (知的財産研究科)
 1 4回目または1 5回目に実施、週1回のクォーター科目は7回目または8回目、週2回のクォーター科目は1 4回目または1 5回目

【設問項目】

設問	設問内容	選択肢
問1	この授業は、「授業のわらい、到達目標、進め方、使用する教科書・参考書、成績評価方法」について、授業初回に資料などを用いて説明が適切に行われましたか？	5: 適切であった 4: ほぼ適切であった 3: どちらとも言えない 2: あまり適切でなかった 1: まったくなかった
問2	この授業は、シラバス記載内容あるいは授業初回の説明に沿って進みましたか？	5: 進んだ 4: ほぼ進んだ 3: どちらとも言えない 2: あまり進まなかった 1: まったく進まなかった
問3	この授業は、学生の理解度を配慮しながら進められましたか？	5: 強くそう思う 4: ややそう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: まったくそう思わない
問4	この授業は、教員の話し方は明瞭で、わかりやすかったですか？	5: 強くそう思う 4: ややそう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: まったくそう思わない
問5	この授業は、黒板の使い方、文字の大きさ・見やすさ、映像資料の図や文字の見やすさ、は適切でしたか？	5: 適切であった 4: ほぼ適切であった 3: どちらとも言えない 2: あまり適切でなかった 1: まったく適切でなかった
問6	この授業の進行度は、内容を理解し到達目標を達成するのに適切でしたか？	5: 適切であった 4: ほぼ適切であった 3: どちらとも言えない 2: あまり適切でなかった 1: まったく適切でなかった
問7	あなたは現時点で、この授業の到達目標をどの程度達成できたと思いますか？	5: 100%~90% 4: 90%未満~80% 3: 80%未満~70% 2: 70%未満~60% 1: 60%未満
問8	この授業1回あたり平均して、予習・復習・レポート作成・課題作成(準備)に何時間かけましたか？	5: 3時間以上 4: 2時間台 3: 1時間台 2: 30分~1時間 1: 30分未満
問9	総合的に考えて、この授業を受講してよかったと思いますか？	5: 強くそう思う 4: ややそう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: まったくそう思わない
問10	この授業を良くするための意見、改善して欲しい事項があれば入力してください。	自由記述

【集計結果】 ※大学院を除く

学部	学科等	科目数	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9
工学部	都市デザイン工学科 (後期前半クォーター科目)	1	5.00	4.50	4.50	4.50	5.00	4.00	4.00	2.00	4.00
	都市デザイン工学科 (後期後半クォーター科目)	49	4.17	4.23	4.03	4.05	4.05	4.05	3.35	3.02	4.04
	空間デザイン学科 (後期前半クォーター科目)	3	4.86	4.71	4.71	4.86	4.71	4.71	3.57	2.29	4.57
	空間デザイン学科 (後期後半クォーター科目)	20	4.22	4.32	3.92	4.05	4.11	3.99	3.30	2.74	4.10
	建築学科 (後期前半クォーター科目)	3	4.25	4.50	4.75	4.75	4.25	4.75	4.00	2.00	4.75
	建築学科 (後期後半クォーター科目)	28	4.14	4.15	3.89	3.93	3.94	3.95	3.20	2.96	3.99
	機械工学科 (後期前半クォーター科目)	1	4.50	4.00	4.50	4.50	4.50	4.50	3.50	3.50	4.00
	機械工学科 (後期後半クォーター科目)	53	4.30	4.35	4.07	4.15	4.13	4.14	3.33	2.80	4.07
	ロボット工学科 (後期前半クォーター科目)	10	4.17	4.02	3.89	4.02	3.95	3.93	2.83	3.02	4.16
	ロボット工学科 (後期後半クォーター科目)	6	4.47	4.31	4.47	4.56	4.39	4.47	3.69	3.31	4.61
	電気電子システム工学科 (後期後半クォーター科目)	18	4.32	4.31	4.15	4.23	4.22	4.17	3.14	2.82	4.24
	電子情報通信工学科 (後期前半クォーター科目)	47	4.18	4.21	3.97	4.02	4.03	4.02	3.01	2.91	3.98
	電子情報通信工学科 (後期後半クォーター科目)	1	4.67	4.33	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00	3.00	5.00
	応用化学科	28	4.31	4.30	3.95	3.98	4.01	4.02	3.06	2.94	4.02
	環境工学科	44	4.41	4.42	4.13	4.18	4.23	4.19	3.16	3.10	4.20
	生命工学科	33	4.14	4.16	3.92	3.97	3.95	3.99	3.33	3.03	3.93
	共通科目 (後期前半クォーター科目)	50	4.21	4.20	3.92	4.00	3.96	3.99	3.31	2.98	3.99
	共通科目 (後期後半クォーター科目)	1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	その他連携科目	18	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
キャリア形成の基礎	5	4.02	4.11	3.94	3.99	3.99	3.97	3.07	2.14	3.85	
工学の基礎 (後期前半クォーター科目)	185	4.29	4.36	4.10	4.13	4.15	4.14	3.45	2.42	3.98	
工学の基礎 (後期後半クォーター科目)	11	4.20	4.30	4.20	4.20	4.10	4.30	3.20	3.40	4.40	
数理科学と教育 (後期後半クォーター科目)	151	4.15	4.22	3.86	3.88	4.00	3.95	3.33	2.77	3.87	
数理解科学と教育 (後期後半クォーター科目)	17	4.44	4.50	4.24	4.20	4.15	4.24	3.31	2.87	4.21	
ロボット工学科 (後期前半クォーター科目)	9	4.05	4.07	3.79	3.80	3.83	3.87	3.18	3.03	3.90	
ロボット工学科 (後期後半クォーター科目)	8	4.05	4.04	3.80	3.88	3.96	3.90	3.13	2.94	3.88	
システムデザイン工学科 (後期前半クォーター科目)	8	3.85	3.93	3.53	3.57	3.70	3.64	2.92	2.97	3.62	
システムデザイン工学科 (後期後半クォーター科目)	8	3.74	3.73	3.58	3.53	3.60	3.61	2.82	2.95	3.52	
システムデザイン工学科 (後期前半クォーター科目)	3	4.35	4.47	3.96	4.16	4.27	3.99	3.03	2.31	4.31	
空間デザイン学科 (後期後半クォーター科目)	10	4.30	4.30	3.97	4.01	4.10	4.04	3.39	3.63	4.18	
空間デザイン学科 (後期前半クォーター科目)	5	4.01	3.92	3.91	3.87	4.07	3.89	3.10	2.54	3.94	
共通教養科目 (後期前半クォーター科目)	7	4.10	4.02	3.79	3.99	3.88	3.86	2.98	2.50	3.69	
共通教養科目 (後期後半クォーター科目)	39	4.39	4.44	4.27	4.31	4.32	4.29	3.60	2.29	4.14	
共通教養科目 (後期前半クォーター科目)	6	4.15	4.06	3.93	4.02	4.05	3.99	3.24	2.71	3.92	
共通教養科目 (後期後半クォーター科目)	16	4.18	4.20	3.93	4.01	4.02	3.96	3.27	2.76	3.91	
工学関連科目 (後期後半クォーター科目)	1	4.46	4.54	4.24	4.27	4.30	4.35	3.82	3.59	4.31	
工学関連科目 (後期前半クォーター科目)	10	4.25	4.21	4.10	4.13	4.16	4.13	3.50	2.81	4.03	
専門横断科目	7	4.24	4.27	4.06	4.09	4.13	4.14	3.48	3.14	4.12	
コンピュータ科学科	54	4.15	4.23	3.86	3.89	4.02	3.95	3.08	2.88	3.91	
情報システム学科	59	4.10	4.18	3.81	3.84	3.98	3.96	3.07	2.76	3.90	
情報メディア学科	65	4.10	4.17	3.77	3.82	3.94	3.87	3.07	3.10	3.84	
情報ネットワーク学科 (後期後半クォーター科目)	59	4.14	4.19	3.85	3.90	3.97	3.92	2.96	3.04	3.84	
情報ネットワーク学科 (後期前半クォーター科目)	1	3.68	3.94	3.62	3.50	3.79	3.68	3.22	2.59	3.51	
共通科目	106	4.18	4.23	3.93	3.96	4.03	4.00	3.11	2.50	3.84	
キャリア科目	4	4.39	4.42	4.32	4.36	4.29	4.35	3.69	2.19	4.26	
専門科目	11	5.00	4.67	4.33	4.67	5.00	4.67	4.33	3.00	5.00	
基礎教育科目	5	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	3.50	3.00	4.50	
導入領域	6	4.39	4.36	4.27	4.31	4.38	4.32	3.78	2.96	4.24	
教養領域	41	4.33	4.34	4.08	4.10	4.14	4.13	3.51	2.66	4.02	
専門領域	55	4.35	4.26	4.18	4.19	4.16	4.21	3.54	2.80	4.12	
展開領域	31	4.52	4.48	4.40	4.43	4.40	4.43	3.82	2.77	4.33	
その他連携領域	3	4.56	4.41	4.44	4.38	4.28	4.44	3.75	2.91	4.38	
教職科目	27	4.45	4.48	4.32	4.38	4.40	4.35	3.56	2.69	4.35	
平均(合計) (後期前半クォーター科目)	71	4.07	4.08	3.79	3.86	3.89	3.85	3.09	2.83	3.85	
平均(合計) (後期後半クォーター科目)	1,317	4.23	4.27	3.98	4.02	4.07	4.05	3.29	2.78	3.98	
平均(合計) (後期前半クォーター科目)	60	4.03	4.02	3.86	3.88	3.96	3.90	3.14	2.81	3.86	
総計	1,448	4.21	4.25	3.97	4.01	4.06	4.04	3.27	2.79	3.97	

授業科目に係る情報の公開について

教育の質向上や教育効果の測定に関わる全学的な取り組みとして、2014年度から授業アンケートの結果および当該授業科目の受講者数、成績分布、合格率等の授業情報について公開を行っています。

本学では授業アンケートの継続実施だけでなく、授業参観の実施やシラバス記載事項の見直しなどの教育改善に取り組んでいます。それらに加え、さらなる教育の質向上を図る一つの方策として、授業アンケート結果の公開範囲を拡大しています。

大学ホームページ「在学生の方へ」から「学生による授業アンケート結果・成績評価状況等(学内専用)」をご参照ください。

【お問合せ先】

大阪工業大学教務部教務課
 TEL.06-6954-4083
 FAX.06-6954-4049
 OIT.FD@joshu.ac.jp

～FD NEWSを教職員の情報共有にお役立ててください～

学部・学科・小グループ・個人での取り組みや活動をFD NEWSに投稿してください。
 授業運営上の悩みを解決した方法などがあれば情報共有していきましょう。